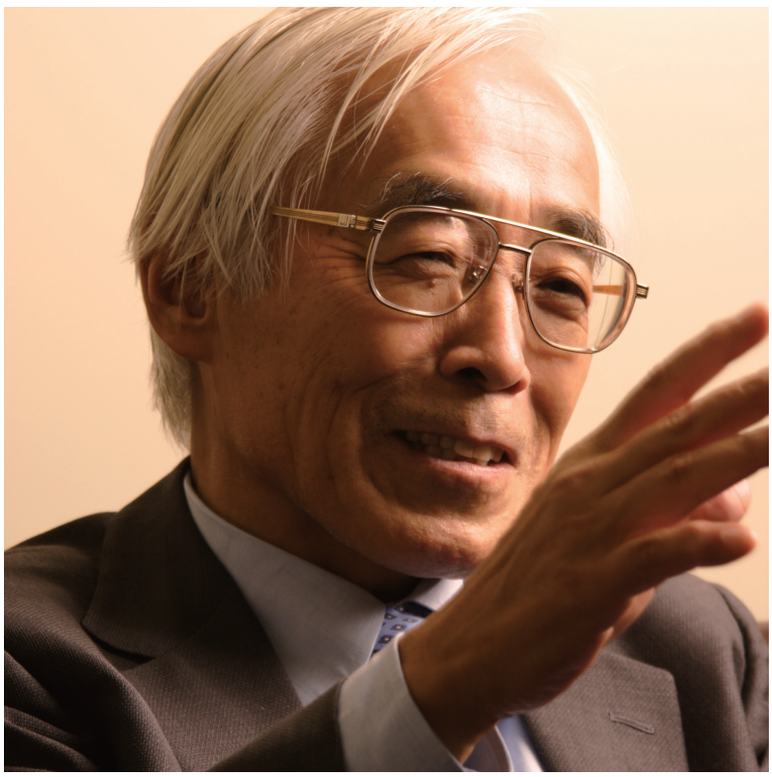
学ぶ意欲のあるすべての人に門戸を開放しています

放送大学 学長 石 弘光

取材・文／堀水潤一　撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1937年生まれ。61年一橋大学経済学部卒業。65年同大学院経済学研究科博士課程中退。77年経済学博士号取得。98年一橋大学学長（～04年）。財政制度等審議会委員、税制調査会会長などを歴任。07年より現職。専門は財政学。

【大学プロフィール】1983年設立の遠隔教育の大学。学位取得を目指す全科履修生ほか選科履修生、科目履修生などの区分あり。全国57カ所の学習センター等で試験や面接授業を行うほかDVD視聴、学生・教員の交流が可能。入学時期は年2回。

放送大学の英語名称はThe Open University of Japanといいます。つまり開かれた大学です。テレビやラジオなどを媒体とした遠隔教育により、年齢や居住地、職業、学習動機にとらわれることなく、学ぶ意欲のあるすべての人に門戸を開いています。

事実、本学には10代から90代まで、バラエティーに富んだ学生が、大学院を含め8万5000人ほど在籍しています。たとえば、高校卒業資格をとるべく科目履修生として学んでいる10代の不登校経験者がいます。また、高校卒業後、いったんは社会に出たものの、学位取得を目指し、全科履修生として勉強しなおしている20代の若者も大勢います。

さらに、仕事をしながらキャリアアップのために学ぶ社会人や、子育てや介護の傍ら勉強を続ける主婦もいます。近年は、学習意欲にあふれた中高齢者が増加。今後も、生涯学習機関としての重要な役割を果たしていくでしょう。

学生に共通するのは、誰に強制されるのでもなく、自らの意志で学んでいることです。そのため非常に真剣で、要求も高い。質の低い講義を放送しようものなら、すぐに苦情が届きます。休講になると喜ぶような、ひと昔前の通学制大学の学生とは違いますよ。

一方で、人間は怠惰な生き物ですから、強制されない分、途中で挫折する危険性もはらんでいます。敢えて強調しますが、自分に厳しくできない人には向かない大学ともいえるでしょう。

現在、本学は学生の視点にたった改革を進めています。同時に、これまで欠けていた国際化の視点を重視していく考えです。海外には類似のOpen Universityが数多くあります。それらと積極的に連携し、技術開発、教材開発、学生支援に生かしたいと思います。

英国の作家ジョージ・エリオットは「なりたかった自分になるのに、遅すぎることはない」といいました。これは、私の好きな言葉です。

学びのルートは、高校、大学、就職という決まりきったストレートなものだけではありません。横道に逸れたジグザクとしたルートだってあるのです。

様々な事情から大学に行けない・行かない人、また、人生の過程で挫折を経験する人は大勢います。そういう人たちが、「やり直そう」「学び直そう」と思ったとき、授業料の負担が少なく、時間も有効に使える本学は、大いに利用価値があると確信しています。